

FOA-NEWS

通算第38号

2016/11/15



TBFOC派遣報告

阿部 博之

3月11日（金）、12日（土）の2日間、米国メリーランド州ボルティモアで行われたTom Beard's Football Officials Clinicへ川田文浩理事と2名で参加させていただきました。

開催場所は、Conference Center of the Maritime Instituteというホテル併設の研修施設です。

実はこれまで新婚旅行と、出身大学の韓国遠征同行（高麗大学戦・韓国オフィシャルとの混成クルー）の2回しか海外には縁がありませんでした。業務の関係でTOEICを受験したのも40歳が初めてです。高校からアメリカンフットボールを始め、本場米国への憧れはありましたが、チャンスをつかむことはできませんでした。

そのため、今回の打診をいただいて以降、一からあらゆる準備が必要になりました。この派遣報告が、報告者と同じような渡航初心者の方への参考として、お役に立てば幸いです。

1. 渡航準備

渡航	パスポート
	ESTA
	TSAロック付のキャリーバッグ
クリニック （座学）	NFL公式規則
	オフィシエティングマニュアル （2015英語版）
	ボイスレコーダー（スマホ代用）
フィールド クリニック	審判装具（シャツは半袖・長袖の両方 を持参するよう指示あり）
	黒シューズ（フィールドは人工芝との 連絡あり）

(1) パスポートはさすがに持っていました（笑）。原則として滞在期間+90日の残存有効期間が必要ですので、注意しましょう。

(2) ESTAは、ビザの代わりということで米国への渡航に必要です。取得は英語のインターネットサイトでクレジットカード決済（\$14）しましたが、日本語のサイトも存在しますので、そちらがおすすめです。

渡航前に取得・登録してしまえば、パスポート番号と紐付くので、プリントアウトした番号を持参したりする必要はありません。もちろん、報告者はそんなことも知らずにPCから印刷した一式を持って渡航しました（苦笑）。

(3) TSAロックは、米国の空港職員が（持ち主でなくても）開けられる特殊な鍵です。空港でのセキュリティチェックのためにキャリーバッグの鍵を破壊されないよう、TSAロックが必要になります。帰国後に荷物を片付け始めたところ、1枚の紙切れが入っており、「NOTICE OF BAGGAGE INSPECTION」と書かれた紙が入っていて、実際に開けられているのだと分かりました。

(4) NFLの公式規則はHPからダウンロードできます。川田さんに教えていただきました。今回の試合はNFLルールで行われるということで持参しましたが、座学でレクチャーもありましたので公式規則のPDFファイルをタブレットPCに入れておけば十分でした。

2. スケジュール

3/10(木)	21:00	自宅出発	
	22:00	羽田空港(HND)集合	
	24:20	HND発UA876	飛行時間 9時間25分
	16:45	サンフランシスコ国際 空港(SFO)着	乗継時間 4時間45分
	21:30	SFO発UA1889	飛行時間 5時間21分
3/11(金)	5:51	ボルチモア・ワシントン 国際空港(BWI)着	
	8:00	クリニック受付開始	
	19:00	1日目終了	
3/12(土)	8:00	2日目オープニング	
	12:00	Game1	
	14:45	Game2	
	17:30	Game3 (←この試合に アサインされました。)	終了後 解散
		Bill Passwaters氏宅泊	
3/13(日)	10:00	BWI発UA310	飛行時間 2時間12分
	11:12	シカゴ オヘア国際空港 (ORD)着	
		Bill LeMonnier氏宅泊	
3/14(月)	13:15	ORD発UA881	飛行時間 13時間15分
3/15(火)	16:30	成田空港着	

全体のスケジュールは、既にほぼすべて川田さんがアレンジしていただいていた。

各自の業務の都合などに応じて別々の渡航とすることもできましたが、やはり同じ日程のほうが安心と思い、今回は3日間の業務休暇を取得し、最初から最後まで同じ行程で参加することとしました。

実は、そうは言っても多くの会社が決算期である3月に休暇を取得するのはなかなか難しいので、シカゴのBill LeMonnier氏を訪問せずに直接ボルチモアから日本へ帰ったらどうか等々、航空券の空き状況を含め調査したのですが、結局、乗継の接続や航空運賃の関係から上記のフライトがベストとの結論に至りました。出発・到着する曜日や発着時間等により運賃がかなり違うという点は、今回初めて学びました。

3. 出発

京浜急行電鉄で羽田空港国際線ターミナル駅へ向かいます。B1から出発ターミナルのある2Fまでのエスカレーターがひたすら長いのに驚きます。

3月の平日、木曜日の夜22時近くというのに思いのほか、旅行者が多くてまた驚き。世の中には裕福な人が多いのか、時間のある人が多いのかと??が頭の中を巡ります。結果、搭乗した飛行機もエコノミーは目一杯の満席でした。

(1) 空港に着いたら最初はチケットの発券です。自動チェックインの機械にパスポートをうまくセットできず、係員の方に助けてもらって何とかチケットが出てきます。座席は事前にインターネットで指定していますので、新幹線の当日券販売機とは違い、少しくらい並んでいても待たされることはありません。ただ、今回すべて窓際の席を指定してしまったため、後々不幸が訪れることになります…。

(2) チケットの次は荷物を預けます。荷物については事前にアドバイスをいただいていて、フィールドクリニックの実技で使用する審判ユニフォーム等一式は、キャリーバッグ等で預けてはいけないうこと、必ず手荷物にして機内に持ち込まないと万一護送があった際にオフィシエイトできなくなってしまうことを聞いていました。

このため、機内持ち込みする荷物はスパイク等も含め国内で試合に向かうのとはほぼ同じ内容ということになります。つまり、それなりの分量になりますので、トランジットの移動の際には結構な重荷です。こういうときはやはり背負うリュックのようなバッグが便利だと思いました。

そうこうするうちに川田さんからメールが到着します。空港は日米問わずWi-Fiがフリーですから、国内はもとより、海外でスマホは便利だと実感します。今回、現地での通信手段ということで、レンタルルーターのようなものを借りようかとも思いましたが、結果的には研修施設や空港などほとんどの場面でWi-Fiを利用することができましたので、特段、調達する必要はありませんでした。ほどなく川田さんと合流、やっぱり同じ行程にして良かった…。

(3) 次に現地通貨への両替を行います。3万円分で258ドルとなりました。チップ用の1ドル札が必要かと思って18枚用意してもらったら、財布に収まりきりません。ところが、チップを払うような場面は、結局ひとつもありませんでした(笑)。

4. フライト～研修施設まで

(1) 予想どおりですが、座席は相当狭いです。テレビ付きで、タッチパネル。映画もテレビもオーディオもありますが、出発時間が0時過ぎということもあって、早々に寝ました。もっとも、狭くて姿勢も取りづらいので、頻繁に目が覚めます。そうこうするうちに機内食と飲み物が出されて、ああ飛行機で遠征させてもらっているのだなあ、と実感します。

(2) 最初のフライトは9時間半ほど。窓際の席にしてしまったため、トイレに行きづらく到着まで我慢していました。しかし、最後は辛抱たまらぬ寸前になり、入国審査待ちの間もひたすら我慢して、完了と同時にトイレに駆け込みました。

結局、米国内、帰りの搭乗13時間の便も含めて、4つのフライトがありましたが、一度も機内のトイレは使わず仕舞いでした。川田さんはその点、旅慣れしていっちゃって、すべて通路側の座席にしていたとのことでした。次回からは報告者も必ずそうしたいと思います。

(3) 入国審査では、係員から渡航目的を聞かれます。こんな時、熟練の先輩達は「ビジネス」と伝えることを後から知りました。

そんな知恵のない報告者は、日本人だから観光でいいかと思い、「sightseeing」とつたない英語で伝えると、おもむろにウニャウニャと係員が質問。良く聞けば家族は一緒なのかみたいな内容です。いや一人だと言うと、本当に一人で来たのか？と怪しい目線。違う違うあっちの友人（川田さん）と一緒にと伝えたらやっとOKが出ました。

(4) トランジットのサンフランシスコ国際空港には概ね予定どおりに到着しました。乗換時間中に仮眠がとれるかと思い、少し暖かい格好にしようとコートを着て自宅を出発したのですが、予想外に空港内は暑いほどです。結局、帰宅するまで通じてコートなんてまったく不要、FOAの黒ジャンパーで十分だったと後悔しました。

逆にフィールド クリニック時にドレスアップした後の上着を忘れてしまいました。私服の着替えも一部忘れたことに気づき、暗い気分になりましたが、結論からするとまったく問題無し。今回、ワイシャツにチノパン、ビジネスシューズといった格好で参加したのですが、もっとカジュアルな服装で良かった…。この点は、初めてFOA納会に参加する人が陥りがちな「想像以上に皆さんドレスアップしてる！」の経験則があったかもしれません。

(5) 到着したサンフランシスコは夕方、雨です。そう言えばモンタナがいた時のキャンドルスティックパークも霧のような小雨のような試合が多かったかなあ、などと20年位前に思いを馳せます。

ここでの乗換時間は4時間半程度を予定していたのですが、悪天候のせいか機材到着が遅れて何と3時間の遅延。お腹は減るし、クリニックに間に合わないのではとやきもきしますが、こういうハプニングも含めて派遣させていただいた中での学びなのかもしれないと感じました。

5. クリニック（1日目・午前）

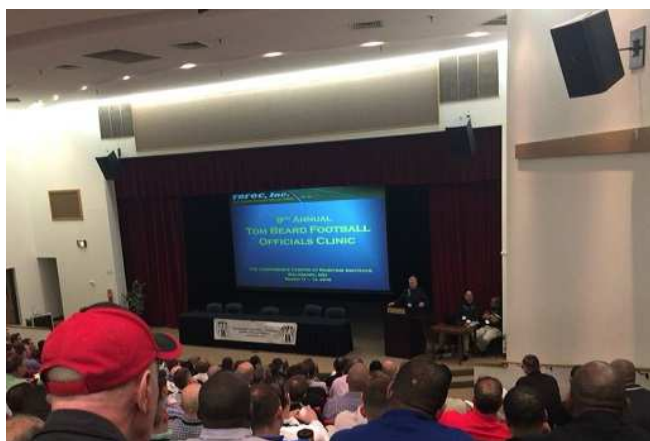
8:45	オープニング
8:55	講師紹介
9:15	基調講演（Jerry Markbreit）
10:30	課題別セッション1
11:15	課題別セッション2
12:00	昼食
13:00	ポジション別セッション1
15:30	ポジション別セッション2
18:00	連絡事項
18:15	クルー別ミーティング
19:00	夕食



(研修施設・CCMIT)

(1) CCMIT というクリニック会場に到着したのは8:45の開会からしばらく過ぎた9:30前後でしたので、既に講師（クリニシャン）の紹介も終わって、Jerry Markbreit 氏の基調講演が始まっています。他にも遅刻している参加者がいますが、誰もあまり気にしないのが大らかな国でしょうか。有料のクリニックなので、関東審判部の必須クリニックなどと雰囲気が違うのは当然なのかもしれません。

会場のAuditoriumも参加者が入りきれなくて、報告者たちは立ち見です。赤坂区民センターホールのような講堂ですが、通路階段にも参加者が座って講演を聴いています。詰めても全員椅子に座れる計算だったのか不明くらい人が溢れていました。



(Auditorium)

川田さんは昨年も出席していたせいか、色々な人から声を掛けられていて、なかなか講義を聴くどころではありません。でも、こうした場面で交流を続けることで、審判員のネットワークを広げていくことがきっと大切なのだと実感しました。

- (2) 午前中は課題別のセッションです。各教室に分かれて参加者が好みの課題を2コマ受講できますので、川田さんと手分けして受講します。報告者の1コマ目は「Move up in officiating the right way」という講義。クリニシャンはBryan Neale氏（NFL 経験2年・アンパイヤ）です。



「Move up in officiating the right way」

審判員として上達する為のDo & Don't について説明を受けます。

◎	・ Goal & Intend ・ Assume ・ Good Teammate
×	・ Sell yourself ・ Move too fast ・ Be critical of others(in public)

川田さんは「Handling tough games」を選択。2コマ目は二人とも一緒に「Time & circumstances」を受講。尤も、表題のような内容は最初の10分くらいで、残りはGerald Austin氏の昔話と体験談が中心になり、しかしそれはそれで参加者は面白く聞いていました。

- (3) 昼食と夕食はクリニックに付いています。いわゆるビュッフェスタイルで、色々な肉、魚（グリル。生魚は当然ながらありません。）、野菜やスープなどがありますが、ラインナップはかなり日本とは違います。

で、何を食べたら良いのかよく分からないので、少しずつあれこれ取ってみます。どの食事でも味付けはあまりなくて、置いてある各種のソースや調味料をかけて食べるようです。報告者は最初、それに気付かず、極めてプレーンなお料理を楽しむことになってしまいました。

6. クリニック（1日目・午後）

- (1) 午後はポジション別のセッションです。報告者はセンター ジャッジ（CJ）で申し込んだので、そのグループに参加します。

最初にクリニシャンと参加者の自己紹介。日本の東京から来ました、と言うと、「ワオ！」と会場一同が拍手です。陽気で明るいのは米国の成り立ちに因るのかもしれませんが、本当に素敵だなあと感じます。

- (2) 基本的に座学の講義は、事前にHP上で案内されていた「Overview of Center Judge Mechanics」pdfのスライドに基づいて説明されます。

CJは未だ発展途上のポジションなのか、座学でも数名のクリニシャンが、「こういう場合はそっちのカンファレンスではどのように運用しているの？」みたいなことを確認し合いながら進んでいました。

- (3) CJのメカ、役割についての説明は、CJだからといって、特別な何か新しいミッションや動きがあるということではなくて、従来の7人制でアンパイヤやレフリーが、時にはバック ジャッジが行っていたオフィシエイティングを少しずつ切り離して分担しているというのが実感です。したがって、聞く内容自体はあまり目新しいわけではありません。

むしろ、CJが加わることによって、その周囲のポジションに様々な影響（＝役割の明確化）が出ますので、クルー全体としてはそちらの方が重要と感じました。

- (4) 例えば、フリーキックのカバーに際しては、アンパイヤとバックジャッジは従来のようにフィールドの中央付近深くまで入って来る必要はありません。CJが中央にいるからです。また、CJはロングリターンの際にゴールラインを守るミッションが必ずありますので、BJは早いタイミングでバックステ

ップし始める必要がなく、自分のサイドのブロックやエンゲージに集中することができます。

こういった7人制との相違点、少しずつ色々なポジション、特にスクリメージプレーでの前4人(R、U、H、L)が、キーに集中しやすくなっているという利点を、クルー全体で正しく認識し、これを活かすことが重要と感じました。



(CJ session)



(Coppin State University Field)

(1) アサインの配分は、多くの参加者がいるため、各Q毎に分かれてクルーが指定されており、川田さんと報告者は当該ゲームの1Qと3Qに入りました。

ちなみに参加者数との関係では、全体の約3割少々が2つのQにアサインされることとなりますが、その他大勢は1Qしか入れません。報告者達は、事務局のパトリック氏が遠い日本からの参加者ということでご配慮いただいていたようで、本当に有難いことと思います。

7. クリニック（2日目）

8:00	オープニング
8:05	NCAA スーパーバイザーパネル
9:30	NCAA Opportunities
10:00	試合の概要説明
10:10	着替え 兼 軽食
12:00	ゲーム 1
14:45	ゲーム 2
17:30	ゲーム 3 (←ここにアサインされた。)

2日目は、午前中の簡単なカリキュラムの後、オンフィールド クリニックとして、3つの会場、4つのフィールドに分かれて、それぞれ3ゲームが行われる中に各参加者がアサインされました。

メリーランド大学では2つのフィールドで合計6試合、Coppin State UniversityとMount Hebron High Schoolでは各3試合ずつの配分です。

いずれの試合もNFLルールで行われるセミプロの公式戦ということで、川田さんと報告者は、Coppin State Universityの第3試合、Sharks vs Chargers のゲームにアサインされました。

	University of Maryland 4052 Stadium Drive College Park, MD 20742	Coppin State University 2500 W. North Ave Baltimore, MD 21216	Mount Hebron High School 9440 Old Frederick Road Ellicott City, MD 21042
12:00 PM	Maryland Stadium SemiPro Game - #1A 12:00p - 2:45p (Crews M1-M4)	Practice Field SemiPro Game - #1B 12:00p - 2:45p (Crews P1-P4)	SemiPro Game - #1C 12:00p - 2:45p (Crews C1-C4)
2:45 PM	SemiPro Game - #2A 2:45p - 5:30p (Crews M5-M8)	SemiPro Game - #2B 2:45p - 5:30p (Crews P5-P8)	SemiPro Game - #2C 2:45p - 5:30p (Crews C5-C8)
5:30 PM	SemiPro Game - #3A 5:30p - 8:15p (Crews M9-M12)	SemiPro Game - #3B 5:30p - 8:15p (Crews P9-P12)	SemiPro Game - #3C 5:30p - 8:15p (Crews C9-C12)
8:30 PM	END		

(会場とゲーム。太枠は報告者がアサインされた試合。)

(2) C Jのスクリメージ プレーでの立ち位置は、ボール オンの後方12ヤードから14ヤード前後。左タックルの外約2ヤードに、タックルボックスを意識しながら「真正面を向いて」立ちます。ついついボールの方を見て斜め向きになりがちですが、C Jのキーはタックルなので、必ず前を向くようにとの指導を受けます。

プレーによっては（左のプレーでは）TEや#3WRも視野に入れる必要があります。

(3) 朝霞ボウルのようなイメージで、各参加者それぞれにポジションごとのメンターが付きまします。

メンターからは、ダウン間のC Jは基本的にボー

ル スポットティングとスナップの管理に専念するので、ボール デッドになったら先ずスポットすべき地点へとにかく真っ直ぐ向かうように、との指示です。アンパイヤがショート ウイング (SW) からボールを貰ってくれるので、ひたすらスポットで待ちます。

- (4) ボール スポットの時は、ほとんどのケースで左右のどちらかを向くことになるので、ゴール ライン側の前足をボール オンするべきヤード上にセットしておいて、ボールを受け取ったら即座にその位置にスポットするのが良いと言われました。

クリニシャン曰く、① Go to the spot, ② Wait the ball, ③ Catch and "BOON!" (spot) なのだとのこと。

- (5) 特にパス失敗後のスポットやプレビアス スポットからの罰則施行を素早く行うために、スポットした場所を 1-29 のように復唱せよとのこと。この場合、「1」は左右のスポットを意味しており、カレッジの場合は左から 5 分割とするため、この場合は左ハッシュ上、29 ヤードとなります。PAT なら 3-3 という感じになります。ちなみにこの試合は NFL ルールのセミプロのゲームでしたのでハッシュが狭く、左右は 1 から 3 までを使うように、との指示でした。

- (6) 報告者が組んだアンパイヤは、Bill Passwaters 氏 (1 Q) と Dauntae Finger 氏 (3 Q) でした。2 人とも 8 人制におけるアンパイヤの役割を良く理解されており、SW と C J との間に素早く動いてボール リレーをしてくれました。

これが普通かと思っていましたが、別のゲームを見ていたらアンパイヤがうまく動いてくれず、C J がボール リレーに入らなければならないケースも散見されました。

こうなってしまうと、プレーヤーもコーチも、次のプレーを開始するスポットが分からなくなってしまい、ダウン&ディスタンスの判断を遅くさせてしまうこととなります。特にフィールド上のプレーヤーはボールオンの位置を見てハドルの場所を決める訳ですから、スムーズな進行に影響を与えてしまうことが分かりました。

- (7) 罰則施行は C J と H L / L J の仕事です。アンパイヤに代わり C J がボールを持って施行し、H L / L J と確認して施行を完了します。

施行地点から歩き出す前には、H L / L J と罰則距離をシグナルで確かめ合います。指 1 本なら 5 ヤード、2 本は 10 ヤード、3 本が 15 ヤードという格好です。

- (8) 反則は一度だけ R R K を取りましたが、川田さんがレフリーのメンターから指導されたのは、「スナップを取り損ねたパンターが、ボール確保後即座にパントを蹴った今のようなケースでは、ディフェンスの選手はボールへ向かうか、またはキャリアとなったパンターをタックルするか、いずれにしても蹴ることが明白に認識できない状況であるので、その中でのヒットは反則としなくて良い」、とのアドバイスを受けたとのことでした。

- (9) 参加者には、クリニシャンが講評を記入するためのカードと紙ケースが配布されますので、フィールドに入る前に担当のクリニシャンに渡します。

報告者のクリニシャンは Kevin Vicknair 氏 (S E C)。もともと L J で、8 人制導入に伴いポジション変更した模様。プレー毎、攻守交替などのタイミングで適宜アドバイスをもらいました。

JOE TBFDC

12	C	Hiroyuki Abe
HIGH SCHOOL (Yrs):		NCAA (Yrs):
0		7
Crew:		
C9, C11		

Know the position and ball position
Go to spot where ball will next be snapped
(and punt, kickoff)
Fumble - don't worry about loose ball
Get in quicker
Little improvement from 1st quarter
- went to spot and didn't have to search
- knew punter spot and ball location

Emergency Contact: (508) 451-1234

(講評を記入するためのカード)

その場でクリニシャンから講評を記入したカードを手交され、アドバイスを受けるという経験は、率直に嬉しいものだと感じました。

また、講評カードが形として残るという点も、後日の復習・再確認に役立つと感じます。

7. Bill LeMonnier 氏訪問

- (1) クリニックの翌日は毎年来日していただいている Bill LeMonnier 氏 (以下、レモニアさん) を訪問しました。ボルチモア・ワシントン国際空港からシカゴへのフライトは日曜日の朝ということもあって定刻に出発です。空港内もあまり混雑はしていませんでしたが、搭乗した機内は結構な満席です。報告者

は事前に PC で適当に座席指定しておいたら、11 列目のエコノミープラスとかいう座席で前後が広いのでびっくり。ただ座席の横幅は同じように狭いので、隣の乗客とはやはり密着感があったりします。

(2) シカゴへは短時間のフライトで無事に着きました。窓の外は雨です。機内アナウンスで華氏 50° と言っていたようなので、10°C くらいでしょうか。ちょっと寒そうです。華氏から摂氏への変換は、32 を引いて 5/9 というのを今回覚えました。

(3) レモニアさんが空港まで迎えに来てくれて、そのまま自宅へ向かいました。空港から概ね 40km くらいの閑静な住宅街です。道も広ければ土地も広いので、隣家との境界線なんて無いのに驚き。道路からガレージへの私道 (10m くらい) まであって、いくつかの家ではそこにバスケットボールのゴールなどが設けられていました。周辺の住宅はすべて平屋建。二階建を見た記憶がありません。

(4) 昼食はせっかくシカゴに来たのだからということで、シカゴ ピザをご馳走になりました。Giordano's というお店です。

食べに来ている周りのお客さんは見る限りピザを食べ過ぎ (!?) という印象。いろいろな種類のピザがあるのですが、レモニアさんのチョイスはマッシュルームやオニオンのトマトソースピザでした。しつこ過ぎず美味しく頂きましたが、量がとにかく多いというか大きい！。

1 枚のピザを 10 等分にカットして出てきましたが、3 人で 6 カットを食べるのが精一杯でした。残りはお持ち帰りです。もっとも、メインのピザの前にクリームチーズのフライやフライドポテト、スパイシーなバッファローウイングをいただいています。



(Giordano's Pizza)

(5) 食後はアイスクリーム屋さんです。レモニアさんのおすそめを川田さんも報告者もいただきます。「甘いものは別腹だろう」、と話してこられる印象が、レモニアさんに対して抱いていた事前のイメージと少し違って、なんだか嬉しくなりました。

でも、きっと日本から来た審判員を歓迎してくれているのであって、しょっちゅうアイスクリームばかり食べているのではないのでしょうか。そうでなければ、ご自宅にチェリーコーク ゼロが置いてあるわけがありません。

(6) ちなみにですが、チェリーコークは、世界的に有名なパークシャー ハザウェイの CEO であるウォーレン バフェット氏が大好きな飲み物で、同氏は機関投資家でありながら、コカコーラについては永久に投資し続ける銘柄に指定しています。(その理由は個人的な嗜好だけではないのですが、ここでは省略します。)

大昔に日本でも売っていたような記憶があるのですが、最近は見ないので、サンフランシスコ国際空港の乗換時間に飲んでみました。空港内は何でも高く、350ml の缶が 2 ドルもします。で、味はというと激しく甘かったです。で、成分表を見れば砂糖が 42g も入っていました。でも確かに魅惑の味だなあといい気もします。

(7) レモニアさんは「もっとフットボールの話をしよう」と地下の書斎へ誘います。いろいろな話やフィルムを見せていただき、4 月末から 5 月にかけて来日される際のクリニックの内容や映像についても川田さんが打ち合わせをされていました。

特に、印象に残ったのは次の 2 つです。

① オフィシエーティングは、99 回きちんとやっても、そこにクリティカルな状況の発生しないことが大半です。しかし、遭遇したそのたった 1 回にきちんとした判定ができるよう、我々は準備しているということ。

きっと、そういう困難な状況がどんな試合であっても起こりうるとレモニアさんは考えていらっしゃる、むしろそのような時にこそ審判員の価値が発揮されるとすら考えているのではないかと。

だから常日頃から、自分がこうあるべきだと考える数少ない幾つかのことについては、1% のミスであっても許してはいけない、徹底することを繰り返さないとそういう姿勢は身に付かない、と言っているように感じました。

② もう一つ、メジャーリーグの審判員はある意味職業化しているのではないかと。今回、あるフィルムを見ながらレモニアさんが発言されます。「彼はこのプレーでいくつもの『ダウングレード』に該当するオフィシエーティングがあった」、と。あるいはまったく別の場面で、「彼は『出場停止処分』となった」、等。

そういう資格制度や処分を行わないといけないのは、それだけ審判員の与える世の中への影響力

が大きいことの証左なのでしょう。つまり、内部での運営上の問題だけではなく、外部に対してそれらを説明しなければいけないのではないかと想像されます。

現に、ESPNのHPを開けばそうした記事が見つかります。そして日本でもバスケットボールの審判員が提訴されるような時代になりました。

- (8) さて、これから我々はどうなっていくのか。勿論、米国であってもすべての試合と審判員がそうになっているわけでもなく、日本がそうなるとも思えません。

しかし、日本の大学でもトップレベルのリーグとそうでないリーグでは、チーム側の運営がもはや異なっていて、そこで動いている金銭の額も異なります。

報告者の母校ですら、OB会の年会費は従来の17,000円から値上がりし、払い漏れのないよう口座振替となっていて、90%の徴収率を目指しています。さらに言えば時節ごとに別途の寄付依頼まで参ります。

OB会費がここまで高くなくても、金銭に換算しづらい父兄やOBの人的支援等を含めれば、トップ校は結構な重みの中で競技運営をしているといえそうな気がします。

もちろん、1試合で7万人を集めるB1Gのカンファレンス チャンピオンシップ ゲームとは違いますが、アマチュア スポーツの在り方という論点もありそうです。

しかし、きっとそれらのことは主体であるチームやリーグが決めていくしかないというのが予想される結論で、そして、否応無く、我々もそれにフォローしていかなければならなくなるのではないかと推察されます。

さて、我々の心の準備は、いや、その前に自分自身の心の準備は大丈夫だろうか、との思いを抱いた次第でした。

8. その他ご報告

クリニックには、元F O AのBill Passwaters氏が参加されており、到着時の空港への出迎え、試合会場への同行に加え、クリニック終了後はご自宅に宿泊させていただき、さらに翌日シカゴへ向かうフライトのためにボルチモア・ワシントン国際空港まで送っていただきました。

- (1) 先にご紹介のとおり、往路の米国内フライトが3時間遅延し、用意されていた空港ークリニック会場間の交通機関が利用できない可能性もあったことから、Passwaters 氏の出迎えは、参加冒頭から非常に有難いものでした。
- (2) 土曜日の夜 22:10 頃にビルのお宅へ到着、シャワーと夕食をいただきました。美味しいピッツアとチキンにムール貝、そしてアサヒスーパードライなどをご馳走していただきました。クリニック会場の食事はピュア アメリカンというか、味も作りもとても大雑把な感じで、正直つらかったこともあり、とてもご馳走に感じました。
- (3) 翌朝はパンケーキにベーコンエッグ。Passwaters 氏のおばあちゃん直伝の温かく溶かしたチーズをパンケーキにかけてご馳走になりました。こちらも美味しかったです。

このような得難い仲間がいることに、心から感謝するとともに、歴々と人脈を築いてこられたF O Aの諸先輩にも、敬意を表したいと感じました。

9. 最後に

最後になりましたが、このような素晴らしい機会を与えていただきました関東審判部、同理事、インストラクター等各委員をはじめ、みなさまに御礼申し上げます。

以 上

TASO Football 2016 Annual Meeting に参加して

大野和明

7月22日(金)から7月23日(土)にテキサス州アビレーンで開催されました TASO (TEXAS ASSOCIATION of SPORTS OFFICIALS) Football 2016 Annual Meeting に伊藤義樹氏とともに参加してきました。

7月20日(水)に成田からシカゴへ行き、ビル・レモニア氏に一週間ぶりに再会し、彼にオーダーのあった高校クリニック (The 2016 Northern Illinois Football Officiating Mechanics Clinic) による6時から8時半過ぎまで参加しました。いきなりフットボール・クリニック漬となりました。前週U19帰りに関東でクリニックを実施してもらいましたが、内容はほぼ同程度のものでしたので、自分にとってはおさらいとなりました。その晩はレモニア氏のお宅に泊めていただき、彼の審判人生にかかわる数々の表彰グッズが並んでいるミュージアム(?)を見させてもらいました。これまで関東審判部から謝礼として差し上げた品々や先日部員の皆さんにサインいただいた2007川崎ワールドカップのタペストリーももちろん飾られていました。感激です!!



7月21日(木)はシカゴからダラスに移動し、そこからレンタカーで約200マイル先のアビレーン (Abilene) へ行きました。ひたすらまっすぐのフリーウェイをすすみ、夕食前までにはアビレーンのホテルへ到着しました。



7月22日(金)は午前中にクリニック会場の Abilene Civic Center に行き、TASO の President の Tommy Moore 氏、Executive Director の Michael Fitch 氏にご挨拶しました。日本からの参加を歓迎してくれてうれしく感じました。ここで Dotson Lewis さんと15年ぶりに再会しました。相変わらずお元気で、フットボールの話をずっと途切れることなくしていました! また関西学連審判部長の濱田さんと日本審判協会理事長の高倉さんとも合流しました。その後開かれた TRAIN-THE TRAINERS Meeting には伊藤さんと濱田さんが出席して、このクリニックの進め方や、直近で発生した間違いやすい罰則施行事例等を学びました。私は初参加だったので、高倉さんに審判グッズショップ巡りをはじめとしたクリニック会場の案内を受けました。

その後は一旦自由行動となり、伊藤さんとアビレーンの町を散策しました。田舎町で有名なものはあまりないとのことでしたが、「Frontier Texas」という開拓の歴史館に行ったり、Abilene Christian University のキャンパスを回ったりしました。日本から観光ではまずいかない町です。



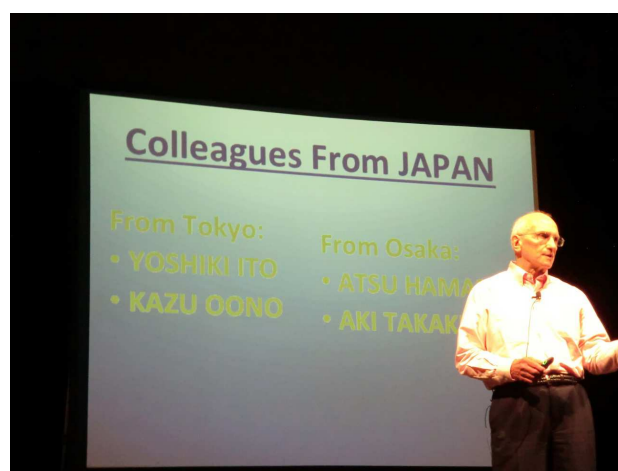


20時からクリニック会場のアウトサイドでTailGate/CornHoleSocialといういわゆる前夜祭（バーベキューパーティ）に参加しました。同じテーブルにはヒューストンから来た女性含む4人組が座り、日本でどのくらい審判やっているのかとか、野球でのイチローやダルビッシュの話に花が咲きました。その後はルイスさんと話をして22時にはホテルに戻りました。

7月23日（土）は朝6時半ごろホテルでジョギング帰りのロジャース・レディング氏と2か月半ぶりに再会しました。TASOへの参加をすごく歓迎してくれました。

その後、クリニック会場へ行き、7時15分から朝食を兼ねての講義があり、コーチへの対応の仕方を学びました。それから全体ミーティングとして「ルールQ&A」（ルイスさん解説）、「表彰等ミーティング」（私たち日本人4人の紹介もありました）、それからロジャース・レディング氏による「2016ルール変更解説」が行われました。内容は私たちが理解しているものと変わりはないですが、ルール解説においては「BBW」の変更に関して丁寧にすすめていました。特筆すべきはレディング氏の解説の冒頭に私たち日本人4名の名前をパワーポイントで映し出し、たたえてくれたことです。またまた感激しました！！講義のあと、レディング氏に5月に来日した時のフォトブック（阿部浩司理事作成）を差し上げたところとても喜んでいただきました。

尚、今回のState MeetingでTASOのPresidentがTommy Moore氏よりBill Theodore氏に交代となり、我々も初めてご挨拶をいたしました。

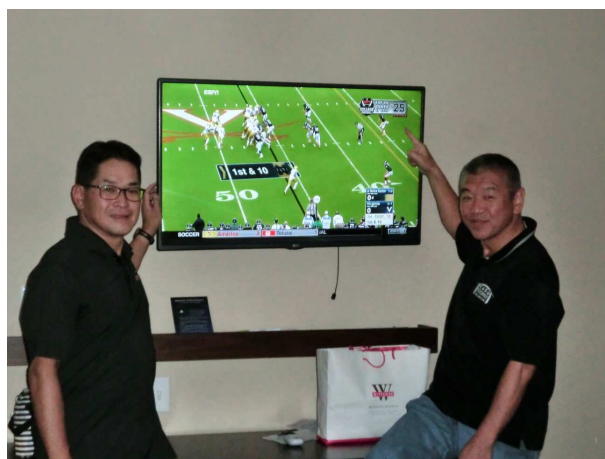


午後は4つのセッションに伊藤さんと別々に参加しました。伊藤さんは「DEAD BALL/GAME MANAGEMENT」「RULE9」「BLOCKING RULES」「ON-FIELD COMMUNICATIONS」、私は「PASS INTERFERENCE」「TARGETING」「DEAD BALL/GAME MANAGEMENT」「RULE10」にそれぞれ出席しました。

それぞれのセッションに出て感じたことは、私たち関東審判部がすすめているクリニックの内容は、このTASOのレベルに勝るとも劣らないということでした。もちろん、レモニア氏やレディング氏のおかげであることは間違いありませんが、この10年間で映像によるクリニックが相当増えたことが背景にあると感じています。一方インターフェランスやホールディングにおいてはTASOにおいても、損害サービスの反則がどのカテゴリーに該当するか、しっかりと確認・認定・説明が必要とされていることと、まだそれができていない現状にあるということもわかりました。私たちもカテゴリーの理解を一層すすめ、「あたった」→即インターフェランス、「掴んだ」→即ホールディングなどというコールに値しない反則をなくしていく必要があります。

すべてのセッションが終了して、このTASO Football 2016 Annual Meetingは終わりました。

夜は伊藤さん、ルイスさん、濱田さん、高倉さんと地元ステーキハウスへ行き、テキサスのおいしい22オンスのステーキを堪能しながら、ルイスさんを中心にフットボール談義をゆっくりと行いました。ルイスさんは相変わらず食欲も旺盛で元気はつらつです！翌朝は早めに伊藤さんとダラス空港へ行き、帰路につきました。



私は2009年にPAC10のクリニックに出席させていただいた以来の海外クリニックへの参加でした。当時のPAC10クリニックのレベルは非常に高く、テストと解説が中心でしたので、内容よりもクリニックの運営手法について学んだ記憶があります。今回のTASOはまさに私たちがすすめているクリニックの内容に近く、審判としての基本、何を大切にして試合運営をするのか等を学ぶことができたので、PAC10（現在はPAC12）とTASOの違いもよくわかりました。今回体得したことを是非とも今後の部の運営に生かしていきたいと思っています。

最後になりますが、道中ずっとアドバイスをいただいた伊藤さんへ深く御礼申し上げます。また、このような貴重な機会を与えていただいた部に心より感謝いたします。ありがとうございました。

以 上

